

西淀川 記憶 あつめ隊

vol.27

にしよど無料塾を主宰して
いる伊藤先生に西淀川
の大气汚染および
無料塾について
お話を聞きました。



にしよど無料塾主宰
伊藤 孝先生

2023年8月25日ヒアリング

新任教員として 大气汚染のひどい 西淀川区に赴任

伊藤さんは1972年春に大阪市の小学校の教員に採用されました。採用面接で「公害で苦しんでいる子ども達の支援を」と意向を伝えたところ、甚大な大气汚染公害被害に苦しんでいた西淀川区の大和田小学校において教員生活を始めることになりました。

通勤時、千船駅に降りると、

晴れていても大气汚染で「空が暗い」と感じていたそうです。川は腐ったような悪臭を漂わし、工場からは化学薬品の臭いが流れてきたり等、公害による汚染がそこかしこに広がっていました。児童にも多くのぜんそく患者がいました。西淀川区に赴任してぜん息患者になった教員もいました。「運動場の朝礼台に立つと、整列した列の後ろの子たちが（大气汚染で）霞んで見えた」と話されるほど、大气汚染が学校生活に入り込んでいました。

小学校で行われていた 公害に対する取り組み

大和田小学校は1969年に大阪府・市教育委員会の公害対策研究学校の指定を受けており、伊藤先生が赴任する前年まで3年間行われてきた。「公害」と題した児童文集を作成したり、社会科では公害がなぜ発生したのかを、保健体育では公害が健康に与える影響を学んだり等教科を横断した取り組みがなされていました。教室には大きな空気清浄機や扇風機が設置されたり、ストーブが石

炭からガスに変わったりと、設備の整備も進んでいました。他にも乾布摩擦や肝油ゼリーの服用なども行われていました。「大和田小の取り組みを見るために、全国からたくさんの方が見学に来ていた」と、先輩の先生方が語っておられたそうです。

伊藤先生が
クラス文集に
掲載した
「乾布摩擦の歌」



児童文集「公害」
(発行:大和田小学校)

子どもたちの学びの 格差をなくしたい

現在、伊藤先生は、無料で子どもたちに勉強を教える「にしよど無料塾」を主宰しています。

伊藤先生は、教員生活を続けていくうちに、子ども達の間で格差が広がっているのを感じるようになりました。「塾に通っている子どもが増えているが、貧困のために勉強したくても勉強できない

子もいる。そして、勉強が得意なことから、なおのこと勉強をしなくなるという悪循環に陥っている」。

定年退職後、同じ思いを抱く元教員や淀川勤労者厚生協会、個人宅で無料塾を運営していた保育士との出会いがあり、2014年から「にしよど無料塾」が始まりました。コロナ禍前には多い時に30人程の子ども達が学びに来ていました。コロナ禍に入り、2020年秋から場所をおおぞらビル会議室(グリーンルーム)に変えて実施しています。現在の参加者は10人前後です。

無料塾は、「興味本位で来る子がいる一方で、本当に勉強したいと思ってきている子がいる。学校の教育とはまるで違う」ため、一人一人の子のニーズに合わせながら、オーダーメイドで教えていきます。「無料塾をはじめ、教育とはなんぞや」というのを突きつけられている」と無料塾ならではの難しさを語ってくれました。地域の方々と力をあわせ、困難な環境にある子ども達の学びを支援されている強い思いを感じました。

【にしよど無料塾】

- 日 時:毎週金曜日、午後5時から開催
- 場 所:西淀川区千舟1-1-1おおぞら財団3F会議室
- 問合せ:06-6472-6453 (西淀川・淀川健康友の会担当:三本松和也)

